

かけがえのなき「命」

10月



発行責任者

西川 晃二

【校長室より】

かけがえなき「命」

10月16日 衛生看護科の第40回戴帽式が行われました。メモリアルホールにて、来賓、保護者の皆さまを迎え、2学年普通科の生徒全員が見守る中での、実に厳粛な式典でした。五島高校においては、卒業式、入学式にも匹敵する大事な学校行事です。今年度は、17名の衛生看護科の生徒にナースキャップをつけました。この40年間で戴帽生総数は1,352名となります。1,300名にも上る若きナースたちを、五島高校から巣立たせていったということに、改めて感慨ひとしおの思いをいたしました。一人ひとりの生徒の頭（こうべ）にナースキャップを戴帽させながら、この子たちが将来、命の灯（ともしび）を守ってくれるようにと、祈念したところです。

昨年度、衛生看護科の生徒諸君には「命」の尊さについて考えてもらいたいと、「命」をテーマにした授業展開を先生方にさせていただきました。特に、国語科の授業では、「詩（ポエム）」の学習を通して「命」の「かけがえのなさ」を生徒諸君に考えてもらいました。校長式辞では、卒業生の創作詩を紹介することで、命のかけがえのなさ、病院実習をすでに経験した先輩の思いを伝えたとところです。

私は病気を治せませんが 話を聞くことはできます。

私は足にはなれませんが 歩くのを支えることができます。

私は目にはなれませんが 代わりに見て伝えることはできます。

私はすべての不安を消せませんが その不安を分かち合うことはできます。

あなたにはなれませんが あなたを支えることはできます。

あなたの笑顔が咲き誇る そんな未来に私はしたい。 （「笑顔の花」 衛生看護科38回生）

さて、この詩をお読みになって、皆さんはどのような印象を持ったでしょうか。国語科の授業を通して創作された生徒の作品ではありますが、この詩を目にしたとき、私は、正直、感動を禁じ得ませんでした。少々大げさではないかと思われるかもしれませんが、若い夫婦が、我が子を虐待し、ついには殺してしまったり、また、学校現場では、いじめの果てに被害者が自殺してしまうなどといった、昨今のマスコミ報道に触れるにつけ、「命の教育」を生徒たちにどのように伝えればいいのか、という思いに、私は強くとらわれます。これから、衛生看護科40回生の生徒諸君も「命」と真っ正面から取り組み、苦闘することでしょう。キャンドルに照らされた生徒の姿を見送りながら、そのような思いを抱いたところです。

今年度は、看護師の方々からお話を伺う機会が多くありました。まず、全国高等学校総合文化祭・JRCボランティア部門が五島にて開催されたわけですが、その際に講師としてご来島いただいた、赤十字国際救援活動部看護師長の関塚美穂さん。さらに、九州地区高等学校普通科校長会・熊本大会での講演者、熊本慈恵病院看護部長、田尻由貴子さん。熊本慈恵病院は、捨てられ、死にゆく赤ちゃんを救いたいと、赤ちゃんポスト「このとりのゆりかご」を設置し、全国に窓口を開き受け入れている病院ですが、その看護部長さんです。彼女の「心」を育てる育児については、機会があれば後日述べたいと思います。命に携わるのは、何も医者ではなく、また、看護師でもなく、誰もがかわるのです。その思いを強く持たなければいけないのではないでしょうか。

さらに、11月の五島地区高等学校PTA研修会は、11月23日の勤労感謝の日に五島高等学校で開催します。その際の講演者として、看護師、内田美智子さんをお呼びしています。「いのちをいただいて はぐくむ」という演題での講演をお願いしています。2年越しの交渉で、やっと彼女には来島願います。彼女の講演は、5月の県P連総会でも拝聴したところですが、素晴らしい講演でした。

親として改めて「命」の意味を考えていただきたい、また、私自身も考えたい、という思いから計画しました。保護者の皆様多数のご来校を是非お待ちいたします。

1 学年保護者の皆様へ

第1 学年主任 久保田幸成



10月2日(水)に実施された学年PTA・学級懇談会には、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご出席をいただきました。全体会に先立ち、これまでの高校生活を映像で見させていただきました。平山学年

委員長のご挨拶の後、福岡カレッジオブビジネスの横山正裕様より、「変化の時代、企業が求める人材とは」という演題でご講演をいただきました。次に修学旅行についての説明と学年の現況報告を学年主任よりさせていただきました。その後の学級懇談会の中でも、保護者間や担任との貴重な情報交換ができたと思います。

これから1 学年では、教員と保護者の方々が「一枚岩」となり、「Students First」の精神でお子様の目標達成や進路実現に向けて進んでいきたいと考えております。ぜひ、ご家族の方でもお子様へ励ましの言葉をかけてください。

2 学年保護者の皆様へ

第2 学年主任 山口 一守

10月2日(水)に実施された学年PTA・学級懇談会には、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご出席いただき、ありがとうございました。

学年会では、松尾学年委員長にご挨拶をいただいた後、現況報告や修学旅行、進路指導、生徒指導についての説明を各担当の職員からお伝えしました。お子様の学校での現状と今後の課題、そして第2 学年の指導方針について、保護者の皆様にご理解いただきたいと思います。今後も保護者の皆様とスクラムを組み、お子様の目標達成や進路実現に向けて進んでいきたいです。お子様は学習と部活動の両立に励んでおりますので、ご家庭でもひと声かけていただき、保護者の方からも頑張る力を送って下さい。また、学級懇談会では、保護者間や担任との貴重な情報交換ができたと思います。保護者の方のお話を参考にさせていただき、お子様の成長へつなげていきます。



第3 学年PTA&センター試験100日前集会

第3 学年主任 村田 誠

10月10日(木) 15:15から、多くの保護者の皆様にご集まいただき、学年PTAを行いました。教頭先生の挨拶、学年の現況報告(学年主任 村田)、進路指導部からの説明(進路指導主事 中野)という内容でしたが、これから受験までの流れが確認できたものと思います。卒業式は3月1日ですが、卒業式の時点で進路が決まっている生徒の方が少数です。学年団一同、最後の最後まで指導します。今後も学校(担任)と生徒、保護者が連絡を密に取り合い、より良い進路実現を目指したいと考えております。よろしくお祈りします。

その後、16:00からセンター試験を受験する生徒を対象にセンター試験100日前集会を行いました。(保護者の皆様にも残っていただき、一緒に見てもらいました。)

教頭先生、学年主任からの言葉に続き、保護者を代表してPTA会長の千代田慎一様に挨拶をいただきました。そして、最後に生徒を代表して、3年4組の山田雄志君が決意表明を行いました。「4組の仲間、野球部の仲間、そして、この学年の仲間みんなまで進路を実現させたい。」という言葉にみんな決意を新たにしたいものと思います。また、山田君は「合格して先生方に恩返しをしたい。」とも話してくれました。我々教職員も身が引き締まる思いで、決意を新たにしております。

センター試験まで100日を切り、焦りも出てくると思いますが、受験は団体戦です。クラスや学年のみんなでお互いに励まし合い、刺激し合い、全力を出し尽くしてほしいと願っています。**頑張り！3年生。**



学校行事

第40回 衛生看護科戴帽式



10月16日(水)、戴帽の儀をとりおこない、衛生看護科2年生17名は看護の道を歩みはじめる決意を新たにいたしました。看護師を目指すひとりとして、憧れのナースキャップを戴いたことに感謝すると同時に、実際に患者様と向き合うという重い責任を感じたひとときだったと思います。看護師という仕事の責任の重さを忘れることなく、また実習生としての本分をわきまえた謙虚な気持ちで実習に励んでもらいたいと思います。最後になりましたが、参列していただいた来賓の方々や保護者の方々には、心よりお礼申し上げます。

これまで一緒に学んできた17名全員で戴帽式を迎えることができ本当に良かったです。学年を問わず今まで御指導いただいた先生方や家族に感謝しながら、今後、みなさんに恩返しできるよう、みんなで協力して実習に臨みたいと思います。(生徒感想より)

9月25日（水）・26日（木）の2日間、長崎県立総合体育館にて体力総合診断が行われました。この体力テストは、専門的な器具を使用し、普段測定することができないような、体力測定や身体組成の測定を行うことができます。

初日は身体組成、身体計測そして全身反応などを行い、2日目はメディカルチェック・食生活診断・筋力、瞬発力、持久力の診断を行いました。1年生は初めての測定でしたが全ての種目において全力で取り組んできました。また、栄養面について指導を受けるなかで、トレーニング以外の面でも課題を見つけることが出来ました。

また、10月17日（木）に体力総合診断結果の報告会が行われました。専門用語も多く難しい内容も含まれていましたが、自分たちの結果や説明を興味深く聞いている様子が印象的でした。今回の診断をきっかけにして、目の前に迫っている新人戦や来年の高総体に向けて、さらに努力していきます。また、このような貴重な経験ができたことに感謝して、学校生活・部活動に取り組んでいきます。



防災避難訓練及び交通教育講話

10月21日（月）に五島消防署から3名の講師の方々にご来校いただき、防災避難訓練を行いました。調理実習室より火災が発生したと想定し、職員による通報訓練、及び職員・生徒による避難訓練を行いました。消火訓練も予定していましたが、強風であったため消火訓練は残念ながら中止となりました。また、消防署職員の方から講話もいただき、充実した訓練を行うことができました。これから乾燥した季節になります。火災やその他の災害にも十分に気を付けましょう。

また、翌日の22日（水）に交通安全教育講話も行いました。五島警察署交通課長様にご来校いただき、DVD上映及び講話をしていただきました。今年度は自転車事故に特化した話をして頂き、その中で

- ・ 2人乗りをしない
- ・ 定期的な整備をきちんと行う

ということと、TSマークについてお話して頂きました。TSマークとは日本交通管理技術協会が認定しているもので、自転車店で整備を行う事によって認定ステッカーをもらうことができます。事故の場合の補償（限度額有り）もついています。もし、認定を受けていなければ是非、自転車店に行ってみましょう。また、これから日没の時間が早くなります。早めのライト点灯など、安全に心がけた生活を送りましょう。



SEA (Sports exchange adviser)

Joseph Tengelei先生 着任紹介

私の名前はジョセフ・テングレイです。ケニアから来ました。JETプログラムを介して、陸上競技のコーディネーターであるSEAとして五島高校で働いています。この五島高校で、陸上競技、特に中距離を伸ばしたいと思っています。

また、少なくとも五島高校の陸上部では、生徒により高いレベルへつながる競争力をつけさせたいです。任期がきれるまでに、競技力を向上させ、保護者のみなさまや先生方に安心してもらいたいと思います。

最終ゴールに達するには、予想以上に時間がかかることは分かっていますが、さらに向上していくことも必要です。

ケニアから来た私を温かく迎えてくださり、校長先生をはじめ、先生方、関係者の方々に感謝しています。最後になりましたが、私を迎えてくださった五島高校PTAの方々にも深く感謝いたします。運動をしている生徒たちのよりよい将来のために、五島高校の素晴らしい評判を維持させていただきます。みなさんがすてきなクリスマスと新年を迎えることができますように。皆さんに神のご加護がありますように（日本語Ver）。



柔道部 主将 山本 信哉

僕たち柔道部は、顧問の引地先生、北川先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。いよいよ、来年の選手権大会、高校総体のシードを決定する新人戦が数日後に控えてきました。また、九州新人大会の出場権もかかっている大事な大会です。過去4年間連続出場しており、今回も自分たちの力で出場権を獲得したいと思っています。先日の長崎地区予選では、惜しくも第3位という結果でした。県新人大会で勝つためには、もっと選手一人ひとりの技術やスタミナを強化しなければいけないと痛感しました。残り数日という期間のなかで、やれることは限られていますが、全力で練習に取り組み、九州新人大会への切符はもちろん、優勝を目指してチーム一丸となって頑張っていきます。みなさまの応援をよろしくお願いします。



卓球部男子 主将 藤原 拓道

私たち男子卓球部はダブルスベスト16、団体ベスト8を目標に日々練習に励んできました。部員数が少ない中で危うく団体に出場できない状況でしたが、たくさんの先生方のおかげでこうして大会に向けて精進することができました。私たちは多くの保護者の方々、ご指導して下さった先生方、卓球関係者の皆様、そして同じユニフォームを着て戦ってくれる仲間のために一生懸命頑張ってきました。応援よろしくお願いします。



卓球部女子 主将 平田 彩乃

私たち卓球部女子はメンバー3人と少ないです。今回の県新人戦も助っ人を入れた計4名での大会出場となります。1人でも欠けてはいけないこの状況こそ底力を見せる時だと思います。今大会の目標としては団体ベスト8入り、シングルスベスト16入り、ダブルスベスト16入りを目指します。大会まで残り少ないですが、精一杯練習に励み、チームのモチベーションも上げて大会に挑み、当日も一球一球を大切に一回でも多く勝ち進むことが出来るよう頑張ります。



バドミントン同好会 主将 濱村歩夢

私たちバドミントン同好会は、県新人戦で優勝を目指して日々練習に取り組んでいます。バドミントンは、体力や技術面はもちろんのこと、強い精神力も必要な競技です。今、私たちは、その精神面に課題を抱えています。試合で、自分たちの本来の力を出すことができず、悔しい結果となることが多々あります。普段の練習中も、試合と同様の緊張感で取り組み、課題を必ず克服して、次の新人戦に臨みたいと思います。



剣道部女子 主将 柳田 真子

私たち女子剣道部は、これまで、毎日の朝練や昼休みの素振りなど、小さな努力をこつこつと積み重ねてきました。

県新人戦は、地区の新人戦と違い、チーム数も増え、レベルも上がります。高総体で優勝した島原高校や西陵高校は全国でもトップレベルです。私たちはそのようなチームにチャレンジする挑戦者なのです。自分たちよりも格上のチームに対し、どれだけ弱気にならずに、強気でやれるかが勝負の鍵となります。少しでも手応えを感じ、高総体につながる試合をしてきたいと思っています。



剣道部男子 主将 田中 喜登

8月に3年生が抜けて、新チームとして日々稽古に励んでいます。すでに2つの大会に出場して、自分たちの足りない部分や弱点を見直しながら、チーム的にも少しずつ成長してきました。県新人戦は、自分たちの技とメンタル面がどのくらい成長したかを試す第一段階だと思います。自分を信じ、仲間を信じて、一試合一試合、チームの気持ちを一つにして戦い、最終段階である高総体につながられるようにしたいと思います。

また、技術面だけでなく、日常生活での目配りや気配りなどをしっかりと重視し、剣道関係者だけでなく、他の方々からも応援されるチームに成長していきたいです。